

防災・減災の取り組み

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、今月で13年となります。

多賀城市内では、震災の経験を後世に伝え、1人でも多くの命を救うため、さまざまな取り組みが行われています。今回は、その一部を紹介します。



保育所・幼稚園で大規模災害を想定した避難訓練を実施しています



「突然大きな地震が来たら、子どもたちの命を守るのか」

本市では(一社)Bird's-eyeと連携し、防災士資格を持つ郵便局長、地域住民、事業所などが連携し、大規模災害を想定した避難訓練を実施しています。今年度は、新たに私立の保育所・幼稚園と避難訓練を実施し、子どもたちの命を守るためにどう行動すれば良いかを実践しました。



▲令和5年9月12日 下馬みどり保育園▲

周囲に危険がないかを確認し、広がらないように注意して避難します。これまで何度も訓練を重ね、冷静に行動していました。

近隣の高校生や企業の社員も避難訓練に参加し、園児たちの避難をサポートしました。



▲令和5年10月11日 認定こども園つむぎ野▲

町内会の見守り隊など、地域住民も参加して、園児たちの安全を見守りました。

参加者の声



大代保育園 園長
鈴木 慶祐さん

再び災害が起きた時に備えて できる限りの対策をしたい

東日本大震災の被災経験から、毎月の避難訓練に加え、日ごろから子どもたちに絵本や動画で約束事を伝えています。子どもたちを預かる立場として「また大地震が起きたらどうしよう」という恐怖があり、食料や日用品などの備蓄はもちろん、テントや救命ポートなど、考えられるさまざまな備えをしています。

今回の避難訓練では、地域の皆さんの協力をいただきながら実施できたことで心強さを感じました。地域の皆さんに保育所の存在を今まで以上に認識してもらえよう、地域との連携を強化していきたいです。

訓練に参加することで視点が変わった

防災士の資格を持つ郵便局長が保育施設の避難訓練に参加することは、全国的にも先進的な事例でした。実際に訓練に参加することで、幼児の視点に立って地域を考えるようになりました。継続することが大切なので、今後も参加して、地域と顔の見える関係性を築いていけたらと思っています。



多賀城郵便局 局長
千葉 勝之さん

多賀城のノウハウを他地域でも活かす



令和5年11月に大代保育園・柏幼稚園で実施した避難訓練には、本市での取り組みを参考にしたいと県外からも多くの方が視察に訪れました。

訓練前日には、東日本大震災当時、石巻市の幼稚園に通っていた長女愛梨ちゃん（当時6歳）を亡くした佐藤美香さんによる講演や避難訓練ワークショップが行われました。県外からの参加者は、盲点となりがちな普段何気なく使っている歩道橋や幹線道路の信号機付き横断歩道も、地震による損傷や停電で使えなくなる可能性があることに改めて気づいた様子でした。訓練当日は大雨となり実際に園児は避難しませんでした。雨の中で訓練することで、防水対策の必要性を多くの参加者が実感する機会となりました。



佐藤さんは講演で「いざというときに人は訓練以上のことはなかなかできない」と、訓練の積み重ねの大切さを訴えました。



ワークショップでは、避難ルートとして想定される道路を実際に歩き、危険と思った箇所などをグループで共有し、適切な避難ルートを検討しました。



▲令和5年11月17日 大代保育園▲

雨の降る中、園児たちを避難させるカートを使用して、避難所まで移動しました。雨天時の避難は、想像以上に大変だと多くの気づきがありました。



一般社団法人 Bird's-eye 代表理事
菅原 淳一さん
(アイリンブループロジェクト)

地域の防災リーダーを増やしたい

災害発生時、避難ルートなどの大事な決定を責任者1人で判断してしまうと、誤った判断だった場合、致命傷となるため判断できる防災リーダーは複数いたほうが良いと考えています。県外からの参加者がそれぞれの地域で活動し、防災リーダーが増えることを願っています。



参加者の声



浜松市市民協働センター
(静岡県)
鈴木 恵子さん

多賀城で得た知見を地元地域に還元したい

実際に被災地を歩いたり、同じ目的意識を持つ参加者と意見交換をしたりして、たくさんの気づきを得ました。多賀城の地形は浜松と似ている点も多くあり、地元置き換えて考えることができました。

浜松に戻って報告会を開き、多賀城で得たことを地域の皆さんに共有して、これからの防災・減災の取り組みに活かしたいです。

史部・多賀城 防災・減災アーカイブス

たがじょう 見聞 憶



「たがじょう見聞憶」は、多賀城市で起こった東日本大震災の記録を収集、保管し、体系的に整理したデジタルデータベースです。震災の記録を未来へ伝え、今後の防災・減災に役立てることができるように、インターネットで公開しています。

災害時に市内で何が起きていたか、発災後から現在までの写真や映像のほか、多賀城市民をはじめ、復興を応援してくださった方々へのインタビュー、復興事業の進捗、過去に多賀城を襲った災害史などについても掲載しています。

今一度、東日本大震災時に起きたことを振り返り、防災・減災の取り組みの一助として活用してはいかがでしょうか。



防災・減災は「伝災」から

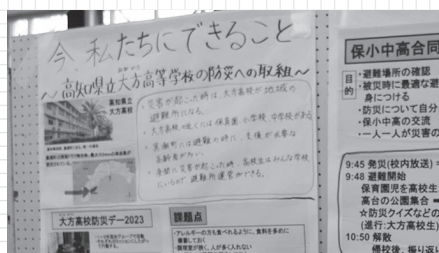
高校生たちが、自分たちで考え、伝えていく

1月19日、20日の2日間、宮城県多賀城高等学校を会場に「東日本大震災メモリアルday2023」が開催されました。

多賀城高等学校の1、2年生全生徒に加え、県内外から25校の高校生も参加しました。東日本大震災の経験と教訓を全国各地・後世に継承し、全国の高校生が自分の地元地域の防災・減災に関する問題や課題を焦点化し、自分事とするきっかけになりました。

高校生自らが研究した成果を発表・共有した「ポスターセッション」

グループでの研究成果をポスターセッションで発表。参加した全国各地の高校生どうして発表し合うことで、研究の理解を深め、新たな知見を得ることができました。



多賀城高等学校
災害科学科 2年
正司 璃久人さん

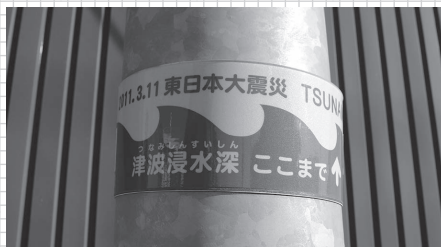
研究で学んだことを全国の防災に役立てたい

東日本大震災時に多賀城市内でも発生した「都市型津波」について、グループで研究しました。都市型津波は海からではなく、さまざまな方向から襲ってくることを知りました。南海トラフ地震では、都市型津波による被害発生が懸念されるため、研究で学んだことを積極的に発信し、全国各地での防災の取り組みに活かしていきたいです。

東日本大震災の教訓を後世へ伝える「津波伝承まち歩き」

多賀城高等学校では、災害科学科の生徒たちが、東日本大震災での多賀城市内の被害状況や被災者の体験談などを生徒自ら調べ、聞いたことを、生徒たちの言葉で実際に歩きながら伝える「津波伝承まち歩き」の活動に取り組んでいます。

今回は、同校災害科学科2年生の生徒が「東日本大震災メモリアル day2023」に参加した県外の参加者向けに案内しました。



多賀城高等学校
災害科学科 2年
志鎌 蒼彩さん

多くの人に多賀城で起きたことを知ってほしい

先輩方から受け継いだ資料を基に、自分自身で調べたり聞いたりしたことを加え、自分の言葉で話すことを心がけています。新しく多賀城に引っ越してきた人や市外に住む人などにも参加してもらい、防災について考えるきっかけになったら嬉しいです。



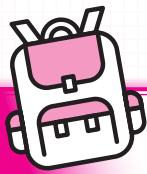
神奈川県立
横浜緑ヶ丘
高等学校 2年
山岡 優花さん

実際に歩くことで津波の恐ろしさを実感

多賀城市にきたのは初めてでしたが、実際にまちを歩きながら津波の高さを見て、津波の恐ろしさを実感しました。普段の地元の生活でも、沿岸部に出かけることも多いので、もし今いる場所で災害が起きたらどう行動すれば安全か、考えることを意識したいと思いました。



家庭でできる 日ごろの備え



家庭での食料などの備蓄や非常用持ち出し袋の準備

家庭での備蓄はできれば7日分、最低でも3日分を準備しましょう。飲料水は1人1日3ℓが目安です。非常用持ち出し袋は玄関などにすぐに取り出せる場所に保管しておくことで安心です。



自宅周辺の災害リスク、避難先を確認

防災ハザードマップで自宅や勤務先などの危険な場所を確認し、避難経路を把握しましょう。防災ハザードマップは、市役所西庁舎2階危機管理課で配布しているほか、市HP、防災情報アプリからも確認ができます。



マイ・タイムラインの作成

マイ・タイムラインを作成しましょう。

マイ・タイムラインとは、いざというときに慌てることがないように、避難に備えた行動を一人ひとりが決めておくものです。防災ハザードマップの9・10ページに書き込みができるマイ・タイムラインシートを掲載していますので、家族で話し合いながら、シートを作成しましょう。

避難開始のタイミング

警戒レベルは5段階あります。警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難しましょう。早めの避難を心がけてください。

| 色の区分 | 避難情報等 (警戒レベル) | | | |
|----------------------|---------------|--------------|--------------------|----------|
| | 警戒レベル | 状況 | 住民がとるべき行動 | 避難情報等 |
| 黒 | 5 | 災害発生 又は切迫 | 命の危険 直ちに安全確保! | 緊急安全確保 |
| — 〈警戒レベル4までに必ず避難!〉 — | | | | |
| 紫 | 4 | 災害のおそれ高い | 危険な場所から 全員退避 | 避難指示 |
| 赤 | 3 | 災害のおそれあり | 危険な場所から 高齢者等は避難 | 高齢者等避難 |
| 黄 | 2 | 気象状況悪化 | 自らの避難行動を確認 | 大雨・洪水注意報 |
| 自 | 1 | 今後気象状況悪化のおそれ | 災害への心構えを高める | 早期注意情報 |

防災情報の収集方法を確認

災害時は時間の経過に伴い状況が変化しますので、正しい情報を収集できるよう事前に収集方法を確認しましょう。テレビ、インターネット、防災情報アプリ、市公式 SNS、防災メールなど、自分が使いやすい方法で、積極的に情報収集をしましょう。

防災情報アプリ「多賀城防災」では、文字や音声で情報を分かりやすくお知らせするほか、緊急時はサイレンで危険であることを通知します。ぜひ登録してください。(裏表紙に登録用 QR コードを掲載しています。)

多賀城防災

無料

App Store

Google Play

多賀城市の防災に特化したオリジナルアプリです。災害発生時の避難情報などはもちろん、ハザードマップや避難所情報など、平時からの防災対策に役立つ情報満載です。

多賀城の情報は 5ch + d!

khb (東日本放送) の地上波デジタルテレビ (5チャンネル) のデータ放送でも、最新の情報を随時更新します。パソコンやスマートフォンが無くても閲覧可能です。

友だち登録はコチラから

LINE

「多賀城市 LINE 公式アカウント」では、災害時などは、市 HP と連携しながら最新情報をリアルタイムに発信します。